

「新しいユネスコの進路と日本外交」

2026年3月11日

ユネスコ日本政府代表部特命全権大使 加納雄大

1. ユネスコと日本

○WW I 後: 国際知的協力の系譜(国際連盟、国際知的協力委員会/機関)

○WW II 後: ユネスコ憲章(1945年)

「戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなくてはならない」

日本は独立回復前に加盟申請(1950年)、正式加盟(1951年)

○ユネスコの特徴: 個人資格参加の名残り、コンセンサス重視の文化

○ソフト・パワー競争の場(中、米、欧、アジア、アラブ、アフリカ)、グローバル・サウス諸国の拠り所

→「政治・安全保障」、「経済・開発」に並ぶ「知的協力」の重要性

(ハード・パワーvsソフト・パワー、「衣食足りて礼節を知る」vs「人はパンのみにて生きるにあらず」)

○冷戦、南北問題、文化財保護(アンコール等)、「歴史戦」、地域紛争対応(ウクライナ、パレスチナ等)

2. 2025年の活動実績

○日本のユネスコ加盟申請75周年関連イベントの開催

○無形文化遺産の登録…「山・鉾・屋台行事」「和紙」「伝統建築工匠の技」の拡張登録

○教育…ESD推進(カントリー・イニシアティブの策定支援、SIDS支援)、2023年勧告履行支援

○科学技術…ニューロテクノロジー勧告の策定(ユネスコ総会)、防災協力の更なる強化

○危機的な状況の支援…ウクライナ、パレスチナ等における国際協力

○IOC議長(再選)、執行委員会(再選、副議長就任)、総会下部機関(国際コミュニケーション開発計画、政府間生命倫理委員会)議長への日本人選出

3. 2026年の展望、注目点

○米国脱退の影響(ユネスコを含む多国間システム全体の課題)

○エル・アナニー新事務局長の下での新体制発足(幹部人事等)、ユネスコ改革(UNESCO80)

○第224回執行委員会(2026-2027年の二カ年予算・支出計画の最終決定)

○地域情勢(ウクライナ、中東)の行方

○日本のユネスコ正式加盟75周年(関連イベントの開催など)

○世界遺産、無形文化遺産 案件登録に向けた取り組み

○世界島嶼国海洋会議

(御参考)ユネスコ日本政府代表部ホームページ

https://www.unesco.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html